

**SUPER  
FORMULA  
LIGHTS**

**HELM**  
MOTOR SPORTS





## 新たにスーパーフォーミュラ・ライツに挑む！

期待とは裏腹に苦戦を強いられるも、第1戦で平木玲次が6位入賞を果たす

チャレンジを絶やさない「HELM MOTORSPORTS」が、また新たなフィールドに臨むこととなった。全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権（SFライツ）は、その名が示すとおりスーパーフォーミュラに準じ、日本の最高峰を目指すには避けて通れないレースである。

シャシーはダラーラ320の、タイヤはヨコハマのそれぞれワンメイクである一方で、エンジンはマルチメイク。「HELM MOTORSPORTS」はTOMEI TB14F3 2020を使用する。

参戦するのは平木湧也と平木玲次。

フォーミュラにはともにFIA-F4選手権以来となり、平木湧也は5年ぶり、平木玲次は2年ぶりながら、その間にSUPER

GTやスーパー耐久で腕を磨いてきたのはご存知のとおり。ブランクを感じさせない走りが期待される。

シリーズは全6大会・18戦の開催が予定され、その皮切りとなるサーキットは富士スピードウェイ。国内屈指のロングストレートを備え、ハイスピードバトルが繰り広げられるのは必至である。開幕に先駆けて実施された公式テストでは、平木玲次が好調。富士で行われた第2回の初日にはトップに立ち、トータルでも2番手につけていた。一方、平木湧也はトラブルもあって出遅れてしまったものの、データの共有が可能であることから対策が施されている。このあたりは2台体制による大きなメリットと言えるだろう。

公式予選

4月9日 (土)

天候：曇り

路面状況：ドライ



## Qualifying

第1大会の走行開始は木曜日。専有走行1回目は平木玲次、平木湧也ともにトップからコンマ差につけて、好調な滑り出しとなったものの、2回目は順調にタイムを詰めていくライバルに比べ、ふたりともやや伸びを欠いてしまう。そして最速タイムが記された金曜日の3回目は平木玲次こそトップからコンマ3秒差の1分33秒271で7番手につけるも、平木湧也は1分33秒761で10番手に甘んじていた。

さらに深刻だったのは、4回目の専有走行。全体的にタイムは伸び悩んだとはいえ、ふたりとも1分34秒台を記録するのが精いっぱいだった。このセッションから直前に他のクラスの車両が走行しており、路面状態の変化が原因のようだ。SFライツ初参戦の洗礼というか、データ不足が明らかになってしまう。もちろんチームとしても手をこまねいていたわけではなく、セットも改めて土曜日早朝の公式予選に臨んでいた。計測時間は30分間と長めだが、ベストタイムでレース1の、セカンドベストタイムでレース2のグリッドが決まるため、時間にそう余裕があるわけではない。その間に、状況に応じてセット変更を施す必要もあるからだ。

最初のアタックにおいて、ふたりは計測3周目からアタックを開始し、徐々にタイムを詰めていくも、上位陣が1分33秒台に入れる中、平木玲次は1分34秒424を、平木湧也は1分34秒887が、その時点でのベスト。ともにアンダーステアを訴えていたことから、そのあたりを中心にセッティングは大きく変更されたのだが……。

残り10分から再度アタックがかけられ、平木玲次は1分34秒137、1分34秒053と、それぞれセカンドベスト、ベストとなるタイムを記す。そして平木湧也は1分34秒421から1分34秒370と、いきなりタイムを出すも、後半のタイムが伸び悩み……。対して、上位陣は1分33秒台の前半にまで突入していたこともあり、レース1、レース2とも平木玲次は9番手、平木湧也は10番手から決勝に臨むこととなった。

## QF COMMENTS



# 62 Driver HIRAKI Yuya

昨日からアンダーステアが強くて、いろいろ対策しましたが、よけいひどくなってしまって。2セット目も対策していったんですが、あまり変わらず、何が原因か分からないです。僕たち

は初めてなので、なぜこうなったか、みんなでミーティングして原因を探らないといけないと思っています。



# 63 Driver HIRAKI Reiji

全体的に昨日からアンダーステアが強くて。他のクラスが走った後だったので、路面の変化もあるんでしょうが、いろいろセットも考えて予選に挑んだんですが、やはりアンダーステアは強いままでした。予選中

ずっと苦しんで、タイムも上げられずに終わってしまった、という感じです。そこがずっと悩んでいるところなので、決勝に対してしっかり改善できるように、準備していきたいと思います。

Rd1 決勝レース  
4月9日 (土)  
天候：晴れ  
路面状況：ドライ



## Race 1

レース1こと決勝レース第1戦は、土曜日の昼から21周で争われ、このレースの順位はまたレース3グリッドの並びともなる。予選同様、上空には青空が広がり、コンディションは上々。どうやらこの週末は雨の心配は一切なさそうだ。

スタートで平木玲次が出遅れはしたが、その後1コーナーから2コーナーで上位に生じたアクシデントにも乗じ、すぐにポジションを戻し、さらに1台の戦線離脱もあって8番手に、平木湧也も9番手に浮上。さらに2周目の1コーナーでコースアウトした車両もあって、それぞれひとつずつポジションを上げる。この時点では前を行く車両も視界におさめており、さらなるポジションアップが期待された。

だが、ふたりが予選で訴えていたアンダーステアは、もちろんセッティングは改められていたものの、「アンダーが出るところはその

まま、オーバー出るところもけっこうオーバー」と、平木湧也にとっては裏目に出て、また改善はされていたが「昨日から少し気になっていたスロットルの戻りが、途中からひどくなって」と平木玲次もまた、ペースが思うように上げられなくなる中、先行車両にリタイヤが。それぞれポジションを上げて平木玲次は、ついに入賞圏内の6番手に浮上する。だが、序盤のコースアウトで順位を落とした車両が追い上げてきて、やがて平木湧也の背後に迫り来る。必死にガードを固めるも、ストレートでもう前に出られたら、抗う術もない。10周目に8番手に後退する平木湧也。その相手は続いて平木玲次にも近づいたものの、必死にガードを固めて逆転を許さず。その結果、初戦を6位でゴールし、平木玲次は貴重な1ポイントを獲得、そして平木湧也が8位となった。

Rd2 決勝レース

4月10日（日）

天候：晴れ

路面状況：ドライ



## Race 2

レース2こと決勝レース第2戦は、日曜日の午前に15周で争われる。本来、平木玲次は9番手から、平木湧也は10番手からスタートを切るはずだったが、タイヤ交換で5グリッド降格となった車両があったことから、ひとつずつ前のグリッドに並べられた。

スタート直後に後方の車両が、平木玲次と平木湧也の間に割って入り、あわや3台接触か……というシーンも見られたが、なんとか免れてポジションキープからレースを開始する。しばらくランデブー走行を続けるも、3周目に平木湧也は1台に逆転を許していた。

その後は平木玲次が激しく8番手を争い、後方からの激しいプレッシャーを受けるも、

「変えたセットがいい方向に行きつつあって、セクター3がだいぶ改善されたので、ストレートで抜かれずに済みました」と鉄壁のガードで最後まで逆転を許さず。入賞には至らなかったものの、レース3に向けては確かな手応えを得ていたようだ。

一方、「昨日より状況は良くなっていましたが、全然ペースが足りなくて、着いていくことができませんでした」と語る平木湧也は、徐々に前をいく2台から離されていき、中盤から単独走行に。10位という結果に終わっていた。

Rd3 決勝レース

4月10日（日）

天候：晴れ

路面状況：ドライ



## Race 3

この週末、最後のレースとなった、レース3こと決勝レース第3戦も15周での争いとなり、前述のとおりレース1の順位でグリッドが決したため、平木玲次は6番手から、そして平木湧也は8番手からスタートを切ることとなった。

だが、ここで平木湧也が「半クラッチの位置がうまく合わなかった」ため、痛恨のエンジントールを喫し、一気に最後尾まで後退！一方、平木玲次はスタートで1台の先行を許すも、ダンロップコーナーで抜き返し、まずはポジションキープの6番手で1周目を終える。

3周目、平木湧也がマスターズクラスの3台をようやく抜いて10番手に浮上。が、その直前に平木玲次はストレートで7番手に後退していた。それでも5台による5番手を争う集団の中で、再浮上の機会を狙う。とはいえ、スリップストリームで近づかれ、1コーナーまでに前に出られる展開がまたも続き、11周目に平木玲次は8番手にダウン。

平木湧也も前との差を詰めはしたものの、スタートでの遅れは如何ともし難く、10位でゴール。ふたりにとってSFライトでの第1大会は、ほろ苦デビューとなってしまった。

## Race COMMENTS



# 62 Driver HIRAKI Yuya

僕たちにとって初めてのレース、SFライツへの挑戦だったんですが、富士のテストで玲次がすごいタイムを出せて、僕たちがやってきたことが間違っていないんじゃないかと思っただけで、この開幕戦を迎えてしまったというのが正直あって、実際には全然違っていたんですね。いろいろセッティングしたり、変えたりしますが、行ったり来たりになってしまっていて……。

改善はされていたんですが、トップグループとは戦える状況ではありませんでした。

思ったより難しい。僕たちは初めてSFライツに乗るし、経験しているメカニックもいますが、ゼロから作っていかねばいけませんので、そこをどうするか。

テストではうまくいったので、可能性はゼロじゃないと思っています。今後はしっかりデータを集めて遠回りせず、いかに効率良くやっていくか。僕たちにはそんなに時間はないし、そんなに長くはできるわけではないので、しっかりと。次のレースまでのスパンが短いので、なんとか改善していきます。



# 63 Driver HIRAKI Reiji

予選としてもレースとしても、ストレートで簡単に置いていかれてしまって、正直なところ戦闘力が足りていませんでした。他のカテゴリーが走って、路面状況や温度が変わってきた中で、まわりはアジャストしてきたと思うのですが、僕たちはそこにうまく合わせ込

めず、またドライビングにもまだ足りないとありました。なんとしても鈴鹿までにそこを改善しなければ、いい結果はないと思っていますので、今日の結果を踏まえてチームとしっかりミーティングし、もっと根本的な何かを見つけて速さにつなげられるよう、しっかり準備していきます。



## NEXT Race

シリーズ第2戦は、早くも2週間後の4月23~24日に鈴鹿サーキットで開催されます。  
今回の悔しさを晴らすべく、しっかり準備し、改善して臨む所存です。  
引き続き応援よろしくお祈いします。

